

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(新潟県)

実施主体名	新潟県（日本酒）
参画事業者	新潟県庁、新潟県醸造試験場、新潟県酒造組合、JETRO等
対象品目 対象国・地域	清酒（日本酒）：シンガポール、オーストラリア

推進体制の構築

- 輸出支援プラットフォームやJETRO等と連携し、シンガポール及びオーストラリアの見本市・展示会において新潟清酒をPR

生産の転換

- 海外輸出新潟清酒の多様化を目指した酵母菌株の育種として、県内名所や果物等の特産品から分離したオリジナル酵母4株の特性を最大限引き出す酒造方法を醸造試験場にて検討した上で、酒蔵での仕込を実証
- 自然界より分離したオリジナル麹菌2株の安全性試験を実施し、日本酒製造用麹菌としての酒蔵での実用試験に向けた確認を実施
- オリジナル麹菌と市販麹菌との米分解力等の特性比較を実験室で行い、酒蔵での麹製造に必要な培養条件を調査

流通の転換

- これまで小ロットで個々に輸出していた新潟清酒や県産品をまとめ、リーファーコンテナをチャーターし、シンガポール、オーストラリア向けに混載・大ロット化による輸出を実証
- これまで京浜港を利用した輸出から、新潟港を活用した輸出商流を構築

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
日本酒	4,361	4,837
（うちシンガポール・オーストラリア向け）	190	211

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(岐阜県)

実施主体名	岐阜県農林水産物輸出促進協議会
参画事業者	岐阜県、JA全農岐阜、県内JA、輸出商社等
対象品目 対象国・地域	柿：香港、タイ、シンガポール

推進体制の構築

- 香港・タイ・シンガポールにて実施する現地プロモーションなどの販路拡大の取組について、輸出支援PFとの情報共有を実施
- 都道府県輸出支援PFフォーラムを通じて、香港・タイ・シンガポールの輸出支援PFの取組との連携事業の実施を検討

生産の転換

- R4年度補正GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトにおいて、タイ向け選果梱包施設認定を1か所から4か所に拡大し、輸出できる柿の量を増やすことができたため、この体制を維持した輸出量の拡大を推進するため、
 - ①施肥時期や量など分析し大玉生産及び安定生産に資する栽培技術の検証
 - ②富有柿の品質向上を目指した高温対策試験を実施

流通の転換

- 日持ち日数の短さに課題のある「天下富舞」の輸送時の品質保持を高める包装方法、荷姿の検証をおこなうとともに、春節需要が高い富有柿の長期保存に適する冷蔵技術の向上に向けた試験を実施
- 糖度17度以上の冷蔵柿のブランド化を目指し、R5年度に構築した生産・流通体制を通じた海外展開、現地調査および量販店でのフェア開催、国内の基準作りを実施
- ブランド柿「天下富舞」の商品価値向上と輸出量拡大を目指し、タイでのプロモーションを実施
- タイ・香港・シンガポールでの「天下富舞」の商標登録を目的とし、調査・手続を実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
柿	21	49

GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(三重県)

実施主体名	三重県養殖魚輸出産地協議会
参画事業者	三重県漁連、三重県、三重県海水養魚協議会、みえぎよれん養殖、三重外湾漁協、ニシウオマーケティング、日本事務器、東日本信用漁連（三重支店）、百五銀行、Local Deshigen Mie、中部国際空港等
対象品目 対象国・地域	養殖ぶり、養殖まだい：タイ、ベトナム、米国、東南アジア諸国等

推進体制の構築

➤行政機関とこれまで三重漁連の輸出計画の遂行に関与してきた機関を中心に「三重県養殖魚輸出産地協議会」を設置し、事業の進捗の確認や情報共有のため定期的に協議会を開催

生産の転換

➤伊勢ぶり、伊勢まだいにおける現在の養殖技術や出荷販売管理のデータ化によるシステムを構築し、他地域の空漁場を有効活用した生産拡大や正確なコスト管理を実施

➤省力化やより高度な飼育管理を目指し、漁場環境観測ブイなどのICT機器の導入とシステムとの連動を検証

➤輸出マーケットへの流通も念頭に、英語での生産履歴の発行を実施

流通の転換

➤輸出EXPO等へ出展し、養殖データ化に伴い、商談時やPR時に現地と生で繋いで理解を深めることを実験的に実施

➤輸出EXPOの開催を利用した商談先の確保を行うため、三浦活魚流通センター等へのバイヤー招聘を実施

➤相手国バイヤーの試食会・展示会への参加（ベトナム、タイを想定）

➤東京港・横浜港、成田空港を使い、三浦活魚センターからの輸出を実施するとともに、牟婁事業所に冷凍設備が配置されることから、東海地域の施設（船便：四日市港等、空輸：中部国際空港）を使った輸出を推進するため、協議会の関係企業と協力し、商談を通じて、東南アジア等への流通の仕組みづくりを実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度	令和7年度
養殖ぶり	0	75
養殖まだい	0	20



GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区の概要(三重県)

実施主体名	伊勢茶輸出プロジェクト
参画事業者	川原製茶、萩村製茶、深緑茶房、茶来まつさか、JA全農みえ、三重県
対象品目 対象国・地域	茶：ドバイ、ベトナム、ヨーロッパ諸国、ニュージーランド、アゼルバイジャン、米国、台湾

推進体制の構築

➤ 現在、ドバイでは日本文化を発信するプロジェクト代表がカウンターパートとなり、伊勢茶のアドボケイツ（ファンとなって他人に薦める者）として現地で営業を行っており、他国でも同様にアドボケイツとなるカウンターパートとの関係構築及び商流確立への取組を実施

輸出額目標（百万円）

品目	令和4年度 (実績)	令和7年度 (目標)
茶	2.4	209

生産の転換

➤ R4年度から県農業研究所と連携し有機栽培体系の技術検証を行ってきたことから、本事業では県農業研究所の指導の下、有機栽培に意欲を示す生産者の園地で、有機栽培転換の大規模実証を実施し、栽培の課題、残留農薬検査及び収量・品質への影響調査を実施

➤ R8年度まで実証を継続し、実証成果について県内の茶生産者へ広く情報提供を実施

流通の転換

➤ 現状は注文に応じて発注、空輸しており、品質の担保は容易であるものの、コスト面から非効率な流通体制となっており、この状態を改善するため、一定量のストックのもと、販売を行う場合や混載して輸送する場合などのリスク等を評価し、効率的な物流モデルの構築を実施